

第6学年 道徳学習指導案

平成24年1月27日(金) 第5校時
場所 教室 在籍児童数 30名

1 主 題 名 あなたの命は宝物 3-(1)生命尊重

2 資 料 名 わたしって何 (出典 彩の国の道徳 「夢にむかって」 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目3-(1)「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」ことをねらいとしている。第1・2学年では、「朝ご飯がおいしく食べられる。」「学校へ来てみんなと楽しく生活できる。」など、当たり前で見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そこに喜びを見いだすことによって生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。第3・4学年では、誕生の話から生を受けたすばらしさを感じたり、病気やけがの様子から自分の生命の尊さを知ったりして、同様に生命あるもの全てを大切にしようとする心を育てることが求められる。高学年のこの段階においては、生命が祖先から自分そして子孫へと受け継がれるかけがえのないものであることが理解できるようになる。生や死の重さ、生きる尊さ、共に生きるすばらしさなど考えることにより、自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てたい。そして、生命に対する畏敬の念を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、素直で穏やかである。しかし、反面覇気がなく、転入もないため小さい頃からの友だちや知り合いである学級の人間関係は、かなり固定化している面が見られる。

最高学年も残り2ヵ月となり「ありがとうがこだまする学校」を合い言葉に、様々な行事や活動をやり遂げ、少しずつであるが自信をつけてきた。「やさしさの花」などにも友だち同士お互いを大切にすゝる気持ちが書かれて、穏やかな人間関係を築こうという気持ちも高まってきている。児童は「命はかけがえのないもの。」「一人に一つしかない宝物。」と知ってはいるものの、自分の身の回りで人の死に直面することも少なく、ゲームなどの影響か「やっつける。」「殺す。」等の言葉も深く考えずに簡単に口にすることがある。生きることの素晴らしさを感じ取り、命の尊さを深く理解させ、自分も他の人たちもみんな同じように大切な命を持っていることを捉えさせたい。そして、力強く生き抜こうとする児童を育てたい。

(3) 資料について

主人公「幸恵」は、「おまえは、この世から去れ!」というギャグを使っては楽しんでいた。話合い①として、このギャグを主人公がどんな気持ちで使っていたか考えさせたい。話合い②としては、教室で拾った紙切れに自分のことが書かれているのを見た主人公が、深く傷ついたことを考えさせる。「この世から去れ!」という言葉が頭から離れず苦しむ主人公に寄り添わせ心の内を探りたい。そして、話合い③では、母の「幸恵のいない世の中なんて考えられない。幸恵は宝物。」という言葉に心がほどけていく主人公の思いを感じ取らせたい。また課題発問として話合い④では、保護者とともに小グループによる話し合いをし、母の気持ちにもふれたい。そして、ふざけて傷つく言葉を使っていた自分を反省し、友だちにも訴える主人公の姿を考えさせ、力強く生きようとする実践意欲を高めたい。

4 研究テーマに迫るための手立て

- (1) 話合い④で、一人一人に深く考えさせ全員が自分の意見が言えるようにするために小グループでの話し合いを取り入れる。そこに保護者にも入ってもらい、主人公の母の思いにもふれる。
- (2) 見つめる段階でワークシートを活用し、命の大切さや生きる素晴らしさについて自分の生活を振り返ることができるようにする。
- (3) 終末でゲストティーチャーの保護者(妊婦さん)のお話を聞き、これからの実践意欲を高める。

5 本時の学習指導

(1) ねらい

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切に力強く生きようとする意欲を高める。

(2) 展開

段階	学習活動 (主な発問)	予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援のポイント ◎人権教育上の配慮事項◆評価	資料時間
導入	1 「命」から想像した絵を見て話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいで明るい。 ・一人に一つしかない。 ・命は宝物。 	<ul style="list-style-type: none"> ○抽象的であるが、命が大切なものと理解していることを押さえ、ねらいとする価値への方向づけをする。 	3分
展 開	2 登場人物、条件・状況について知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 登場人物 主人公『幸恵』・母 条件・状況 「おまえは、この世から去れ。」というギャグが流行っている。 ・教室で拾った紙切れに、自分のことが書いてあった。 </div>		条件情報カード
	3 資料「わたしって何」の範読を聞く。 ・友達と話し合いたいところを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「おまえはこの世から去れ。」というギャグを言っている時 ・秘密という封筒を拾った時 ・自分の悪口を見た時 ・母の話を聞いた時 	<ul style="list-style-type: none"> ○主人公の気持ちを考えながら集中して聞けるようにする。 ◎一人一人の意見を大切にし、分かりやすくまとめながら話題を整理する。 ◆範読から、自分なりの課題がもてたか。 	幸恵の顔
	4 主人公の心の変化を中心に話し合う。 ① 幸恵は「おまえは、この世から去れ。」というギャグをどんな気持ちで使っていたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくて仕方ない。 ・友だちと言ひ合うとおもしろい。 ・盛り上がる。 ・ギャグだから使ってもいいのよ。楽しみを奪わないで。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会話の中で盛り上がるギャグとして「おまえは、この世から去れ。」と何気なく使っている幸恵に共感させる。 ○母の注意も楽しみを奪う物としてしか聞けない幸恵の気持ちを考えさせる。 	幸恵の顔
	② 自分の悪口が書いてあるのを見て、悩む幸恵の心の内を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・私のことをこんな風に思っているなんて…。 ・私は嫌われているんだ。 ・私はいない方がいいの？ ・何も考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○拾った紙切れにまさか自分のことが書いてあるとは思わなかった幸恵の驚きと、心が傷つき自分の存在価値が無くなってしまったように感じている心の内を捉えさせる。 	場面絵 シルエント
③ 「幸恵は家族の宝物よ。」と言われた幸恵はどんな気持ちになっただろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんありがとう。 ・とてもうれしい。 ・私を大切に思ってくれる家族がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お母さんは「宝物」と言ってくれ心はほぐれたが、友だちに対して自分の思いをどう伝えるべきか、課題発問として考えさせたい。 	場面絵	
④ 幸恵は「おまえはこの世から去れ。」というギャグを使っていた自分をどう思うだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・私も知らないうちに友だちを傷つけていたかもしれない。 ・私も友だちもみんな大切な一人一人なんだな。 ・私も強くなりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループで話し合うことで、全員が意見を発表できるようにする。また、保護者にも入ってもらい、親の立場から語ってもらうことで、自分も友だちも大切な存在であることに気付かせる。 ◆自分も友だちも大切な一人である気がつき、力強く生きようという前向きな思いを感じ取れたか。 	26分	
5 自分の生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・幸恵にアドバイスをするつもりで書かせ、自分が振り返って考えたことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く活動を取り入れ、自分の考えを整理させる。「命は大切。」と言うだけでなく、力強く生きていくことにも気付かせ、実践意欲を高める。 	プリント	
6 5分				
終末	6 ゲストティーチャーとして、保護者の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな大切に育ててもらってきたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○妊婦さん(保護者)のお話を聞き、一人一人が大切な宝物であることを感じ取り温かい気持ちで余韻を持って終えたい。 	3分

6 評価の観点

- ・生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切に力強く生きようとする意欲を高められたか。(観察、日記、振り返りカード)